

# 謹賀新年

# おてら

常例十六日講  
写経会  
一月、二月、八月  
はお休み致します



2022.11.5 住職撮影

## なぜ死ぬのか

住職 蒲原 霊英

秦の始皇帝のように、昔から古今東西の人間達が不老不死を求めて来ましたが、未だ実現できていません。脳の情報の転送によって永遠に生き続けるという、トランスヒューマニズムの動きが着々と進んでいるようですが、。そもそも、生物は、激しく変化する環境の中で存在し続けられるように、誕生し進化してきました。そして、オスとメスの「性」を分化して有性生殖を行うようになって、一層の多様性を獲得することを可能としました。当たり前ですが、多種多様な生物が存在すればするほど、余程の事が有っても、何かしらの生物が生き残る確率が高くなるわけです。しかし、子孫を残した後も親世代がずっと生き残っていると、今度は食糧や生活空間の不足という問題が生じてきます。そこで、より多様性に満ち、生き残れる可能性が高い子供を残し、親が先に死んでいくという選択をしたのです。

子孫を残してすぐに死んでしまう生物が多い中、私たちヒトを含む大型哺乳動物は、子供が独り立ちできるようなるまで、しっかりと世話をする必要がありまます。また、子供は、群や集団といった、親を含めた又は親を含まないコミュニティの中でも生きる知恵を学びます。そう考えると、生物学的には、子育てが終わると、又はコミュニティの中で子孫達に教えることが無くなると、生物としての役目は終わり、死を迎えるということになります。生物であるヒトも例外ではなく、その役目が終わった時に死が訪れるように、予めプログラムされているのです。

仏教では、「世の中の一切のものは常に変化し生滅し、永久不変なものはない」という「諸行無常」の真理を説きます。すなわち、ヒトを含む生物であれば、必ず死ぬということなのです。生物学的な事は分からなくとも、お釈迦様は不変の道理として説かれました。大事なことは、死が予めプログラムされた、限りあるこのいのちを、どうやって生きるのかということです。生物としての原点に立ち返れば、自分の為だけではなく、やはり子孫や次世代を生きる者達に、何かしらを残していくということが大事なのだと思います。それは、「諸行無常」でいつ無くなるか分からない物質的な物よりも、脈々と受け継がれてきた精神的なものこそが大事なのではないでしょうか。そこには、仏教の教え、南無阿弥陀仏のお念仏の教えが在ります。ヒトである私も生物の一種であり、様々な生物や人間同士のご縁の中に、偶々生かされているに過ぎません。このご縁に深く感謝し、このいのちも他のいのちも大事にしなから、精一杯生き切ることの大切さを伝えていきたいものです。合掌



# 新年にあたり

門主 大谷 光淳

今年、親鸞聖人のご誕生から八五〇年、来年は、浄土真宗のみ教えを体系的にまとめられた『教行信証』の成立から八〇〇年という記念の年となります。それにあたって本願寺では、三月二十九日から五月二十一日までの三期三十日間にわたり、「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」をおつとめいたします。また、築地本願寺と教区・別院・教室においても、来年末までに慶讃法要をおつとめすることになっていきます。親鸞聖人のご誕生を祝し、立教開宗のご恩に感謝して、あらためて私たちが浄土真宗のみ教えに出遇えたことを喜ぶご勝縁にしたいと思います。

親鸞聖人は、法然上人のもとで、出家・在家を問わず、凡愚の者も等しく救われる阿弥陀さまの他力本願のみ教えに出遇われます。そして、『大無量寿経』に説かれるこのご本願の救いを「浄土真宗」と名付け、『教行信証』によってその教えを打ち立てられました。したがって、私たちが浄土真宗のみ教えに出遇うことができたのは、親鸞聖人のご誕生と『教行信証』撰述のご苦勞によることは申すまでもありませんが、加えて、今日まで八〇〇年の永きにわたり、聖人のみ跡を慕う多くの先人が、み教えを確かな依りどころとして生き抜き、受け継いでこられたからにはほかなりません。

どのようなように科学技術が発達し、また医療が進歩したとしても、老・病・死に象徴される、私たちの根源的な苦悩がなくなることはありません。特に、新型コロナウイルス感染症により、当たり前と思っていた私たちの日常は一変しました。自分の思い通りにならないことで、悩みや苦しみを抱え、不安や焦りを感じている方も多くおられるでしょう。しかし、たとえ悩みや苦しみの中であつたとしても、私たちは阿弥陀さまのご本願に絶えず喚び覚まされ、導かれながら、お覚りという真実の世界、真理にかなった世界へと歩みを進めることができます。

今後ともみ教えを聞き、仏法を依りどころとして生きていくことで、他者の喜び・悲しみを自らの喜び・悲しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、すべてのいのちのある者が、お互いに心を通い合わせて生きていけるような社会の実現に向け、精いっぱい努力させていただきます。

合掌

## 大海庵での通夜・葬儀のご案内

昨今、家族葬など少人数での通夜・葬儀が執り行われることが多くなつて参りました。浄光寺でも山門脇にある寺務所・大海庵にて、そのような形での通夜・葬儀を行うことができますので、ご案内致します。



大海庵は庫裏とは完全に独立した棟で、空調設備、トイレ、キッチンや冷蔵庫も完備しております。ご家族やご親戚などだけで、ごゆつくりと故人とのお別れの時間をお過ごしいただくことができますし、お斎の席を設けることもできます。また、火葬・収骨後のお礼参りにご来寺されることも鑑みますと、無駄の無いスムーズな移動が可能となります。



ご見学やご相談は随時個別に承りますので、お気軽にお寺にご連絡ください。